

教育原理

担当教員 未定

配当年次 2年

単位区分 要件外

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

教育の基本的概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	教育とは何か／講義の目的・概要と進め方について
2	教育の目的と本質
3	教育と人間発達（1）発達メカニズム
4	教育と人間発達（2）レディネスと教育
5	教育と社会／教育の理念についての理解
6	諸外国における教育の歴史と思想（1）古代の教育
7	諸外国における教育の歴史と思想（2）中世・近世の教育
8	諸外国における教育の歴史と思想（3）近代の教育
9	近代教育への批判と新教育運動の思想・実践（1）ヨーロッパ
10	近代教育への批判と新教育運動の思想・実践（2）アメリカ進歩主義教育
11	わが国における教育の歴史と思想（1）戦前
12	わが国における教育 歴史と思想（2）戦後
13	教育における家庭の役割
14	社会のなかの子どもの変化
15	今日の子どものめぐる諸問題（いじめ、不登校などをめぐる状況と学校教育の在り方）

【履修上の注意事項】

授業には参加的態度で臨むこと。
 その他、授業外でも教育にかかわる情報をキャッチする鋭敏なアンテナを持ち合わせて欲しい。
 事前にテキストを読み、事後には復習をしておくこと。

【評価方法】

原則として学期末試験（70%）、小レポート（30%）を評価の対象とする。

【テキスト】

石村華代・軽部勝一郎編著『教育の歴史と思想』ミネルヴァ書房、2013年。

【参考文献】

授業時に適宜紹介する。

教職論

担当教員 嶋 政弘

配当年次 1年

単位区分 要件外

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

- 1 教員の身分と役割, 義務と裁量権について理解する。
- 2 最近の, 教員を取り巻く状況や課題について理解する。
- 3 教員に関わる教育制度, 学校の組織構造, 学級経営の現代的問題理解を通して, 求められる新しい教師像と専門性について考察することができる。

【授業の展開計画】

授業の概要

授業においては, 各回のテーマに関連のあるニュース等を資料にするなど, 具体的な事象を基に考える場面づくりを設定する。

また, ペアによるディスカッションを随所に仕組んだ講義を中心に進め, 提示または配布した資料を基に自分なりの考えを導き出すような展開にする。

授業計画

- 第1回: 教職とは何か 教師の役割と使命感
- 第2回: 教職の意義と教員の立場
- 第3回: 教員の服務義務 (法的義務と現状)
- 第4回: 教育をめぐる現状と求められるもの
- 第5回: 社会と教員に求められる資質能力
- 第6回: 校務分掌と教員の多様な仕事
- 第7回: 教職員及び地域連携等によるチームとしての学校運営の在り方
- 第8回: 一人一人の児童・生徒を守る教師
- 第9回: 児童・生徒のための学校に
- 第10回: 学校・家庭・地域の役割と連携
- 第11回: 教員の資質の向上と研修制度
- 第12回: 教員の専門性の向上 免許更新制と教職大学院
- 第13回: 教員の不祥事とその背景にあるもの
- 第14回: 任命権者と教員採用の在り方
- 第15回: 教職への道

【履修上の注意事項】

- 1 ペアによるディスカッションをするため, ペアを作って着席する。
- 2 すべてペアに発言の機会があるので, 常に自分の考えを持って参加する。

【評価方法】

ディスカッションへの参加40%, 課題提出20%, 期末試験40%で評価する。
再試験は実施しない。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献】

毎回, 資料を配布する。参考資料については, 授業の中で随時提示する。

教育行政論

担当教員 嶋 政弘

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1 教育行政の基本概念を理解し，教育行政をめぐる諸問題について自分の考えを持つことができる。
- 2 日本国憲法及び教育基本法から導き出される教育の基本原則，及びその意義を理解する。
- 3 学校教育における具体的な事例について，その多くが教育行政と密接に関連していることを理解する。

【授業の展開計画】

学校教育における様々な場面において，事例や判例を基に，学校教育に関する様々な場面や課題を想定し，その実態と問題点に視点を向けさせる。

次に，その根拠となる関連法規や資料を判断基準として，実際の場面ではどのように判断すべきかについてのディスカッションを中心に展開する。

週	授 業 の 内 容
1	学校教育制度の目的と構造
2	教育行政① 教育委員会の組織・機能，教職員の人事権
3	教育行政② 学校選択制の拡大，教育振興基本計画
4	学校組織① 校長の職務と権限と職員会議の機能
5	学校組織② 校長，副校長，教頭の資格要件とその緩和
6	学校組織③ 養護・栄養・図書教諭等の職務
7	学校組織④ 学校とそれを取り巻く地域との連携
8	教職員① 学校教育活動の計画と評価
9	教職員② 教員免許更新制と教職大学院の役割・機能
10	教育課程① 学習指導要領の法的拘束力と基準性
11	教育課程② 学習指導要領とその改訂
12	教科書採択制度
13	児童・生徒への対応① 登下校時を含む安全の確保と現代的課題
14	児童・生徒への対応② 学校事故における法的責任
15	児童・生徒への対応① 懲戒の範囲と体罰，出校停止

【履修上の注意事項】

- 1 ペアによるディスカッションをするため，ペアを作って着席する。
- 2 すべてのペアに発言の機会があるので，常に自分の考えを持って参加する。

【評価方法】

ディスカッションへの参加40%，課題提出20%，期末試験40%で評価する。
再試験は実施しない。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献】

毎回，資料を配布する。参考資料については，授業の中で随時提示する。

発達心理学

担当教員 水間 宗幸

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

基本的な教養および対人専門職の基礎的位置づけとして発達心理を位置付け、これを学ぶことにより自己及び他者をひとつの人格として考えることができる。またそれぞれの発達段階の一般的特性を理解し、望ましい発達およびその支援を考えることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	専門職として発達心理学を学ぶ意義～ガイダンス
2	発達心理学の基礎理解～発達理論、発達段階、発達課題、発達と学習の関係
3	乳幼児期の発達の特徴～人・モノとの出会い
4	愛着形成～親との関係性と子どもの行動
5	認知発達～子どもの遊びと社会性の広がり
6	ことばとコミュニケーションの発達
7	自己と情動の発達～感情発達が行動に与える影響
8	仲間関係とこころの理解
9	道徳性と向社会的行動の発達～集団の中で学ぶもの
10	児童期の発達の特徴～学校教育という環境と発達課題
11	学校のなかでの子ども～学びを支える指導の在り方
12	発達の多様性の理解～発達をつまづきや多様化する社会の中の子どもの困り感
13	思春期・青年期の発達の特徴とアイデンティティの形成
14	成人期から老年期の発達と課題
15	発達と学び～生涯学習と生涯発達支援

【履修上の注意事項】

予習・復習を行うこと。特に、次回授業内容に関して必ず教科書の当該箇所を読んでおくこと。復習においては、キーワードを自分のことばで説明できるようにしておくこと。

【評価方法】

学んだことについて総合的な理解がどの程度できているか、レポートにて評価する。フィードバックについては希望者に対し個別でレポートのコメントを行う。

【テキスト】

『新・プライマーズ/保育/心理 発達心理学』 無藤隆・中坪史典・西山修編著 ミネルヴァ書房

【参考文献】

講義過程でも適宜紹介の予定

特別支援教育総論

担当教員 水間 宗幸

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

特別支援教育の意義や目的を理解し、学習面、行動面などに困難を抱える子どもの理解を、発達心理学的観点から理解し、それぞれの発達段階や特性に応じた教育および支援の在り方を考えることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：特別支援教育の概要と中教審「特別支援教育推進について」
2	特別支援教育と発達臨床心理学的考え方
3	読み書き計算などに制約がある子どもの理解
4	読み書き計算などに制約がある子どもの支援の考え方
5	注意集中力などに制約がある子どもの理解
6	注意集中力などに制約がある子どもの支援の考え方
7	社会性の発達などに制約がある子どもの理解
8	社会性の発達などに制約がある子どもの支援の考え方
9	貧困や母国語など社会問題等によって発達に課題を抱える子どもの理解
10	教育課程の中の特別支援教育の理解
11	特別支援教育に関わるアセスメントについて
12	発達に制約がある子どもの二次障害への理解
13	不登校の理解と支援
14	虐待が発達に及ぼす影響の理解と支援
15	学習面、行動面に困難を抱える子どもを支える専門機関の理解

【履修上の注意事項】

予習・復習を行うこと。特に、次回の講義で扱う内容について、必ず教科書を読んでおき、復習時にはキーワードを自分のことばで説明できるようにしておくこと。

【評価方法】

授業内での参加態度（20%）、試験（80%）で評価する。なお試験のフィードバックについては、模範解答を示し、希望者には個別に口頭で評価内容を伝える。

【テキスト】

はじめての特別支援教育--教職を目指す大学生のために 改訂版（有斐閣アルマ）

【参考文献】

「発達障害の子どもたち」「発達障害のいま」とともに杉山登志郎、講談社現代新書。その他、適宜紹介する。

教育課程論

担当教員 未定

配当年次 1・2年

開講時期 第1・2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 1年生は第2学期、2年生は第1学期に受講すること

【授業のねらい】

- 1) 学校教育において教育課程が有する役割や機能、並びに意義を理解する。
- 2) 教育課程編成の基本原則、並びに学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。
- 3) 教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	教育課程とは：教育課程の意義
2	教育の目的と教育課程の編成原理
3	教育課程の歴史的展開と教育方法
4	日本における教育課程の歩み：戦前
5	日本における教育課程の歩み：戦後
6	教育課程の法と行政
7	学習指導要領の特徴と変遷（1）経験主義から系統主義、教育の現代化
8	学習指導要領の特徴と変遷（2）「ゆとり教育」と新学力観、「脱ゆとり教育」
9	教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法
10	児童又は生徒や学校、地域の実態を踏まえた教育課程や指導計画
11	学校教育課程全体のマネジメントおよび学習指導要領に規定する教育課程のマネジメント
12	授業計画（学習指導案）の作成
13	授業計画（学習指導案）の発表と相互検討
14	教育課程の経営と評価
15	今日の教育課題と教育課程：「学力」をどう捉えるか

【履修上の注意事項】

上記の計画は、受講者の数及びニーズに応じて一部変更する場合があります。事前にテキストを読み、事後には復習をしておくこと。

【評価方法】

期末試験70%＋リフレクションペーパー30%を原則とし、総合的に評価する。

【テキスト】

広岡義之編著『はじめての教育課程論』ミネルヴァ書房、2016年

【参考文献】

『学習指導要領』